

下田市の指定避難場所

いざというときは最寄りの施設へ避難を

避難場所は、災害の種類や規模により異なります。避難場所が遠距離の場合、または緊急の場合は近くの堅牢かつ安全な建物や広場に避難してください。また、津波の場合は高台の安全な場所に一時避難してください。



【広域避難場所の位置図】
災害時、広域避難場所へは市から地区担当班が派遣されます。

広域避難場所

- ① 下田中学校
- ② 敷根公園
- ③ 稲生沢小学校
- ④ 稲生沢中学校
- ⑤ 稲梓小学校
- ⑥ 朝日小学校
- ⑦ 青少年海の家
- ⑧ 下田東中学校
- ⑨ 浜崎小学校
- ⑩ 白浜小学校

避難場所

- 下田幼稚園
- 下田公園
- 長楽寺
- 天理教下田分教会
- 下田小学校
- 本郷公民館
- 西本郷三丁目 稲荷大明神高台
- 立正佼正会
- 中村東公園
- 中村中央公園
- 中公民館
- 竹麻神社
- 稲生沢公民館
- 県立下田高等学校
- 上大沢消防詰所
- 下大沢共同集荷所
- 諏訪神社
- 重福院
- 向陽院
- 下田自動車学校
- 落合公民館
- 稲梓中学校
- 稲梓幼稚園
- 基幹集落センター
- 須原公民館
- あずさ山の家
- 八木山公民館
- 相玉公会堂
- 諏訪神社
- 加増野ポーレポーレ
- 北湯ヶ野公民館
- 大賀茂小学校
- 朝日公民館
- 宝徳院
- 観音寺
- 須崎保育所
- 旭洞院
- 旧板戸公民館
- 禅福寺

こんな場所で地震が起きたら

地震はいつどこで起きるか分からないのが現状です。地震の発生を防ぐことはできませんが、被害を最小限に抑えることはできます。次の場所で地震が起きたときの知識も準備しておきましょう。

○外を歩いているとき
その場に立ち止まらず、カバンなどで頭を保護して、窓ガラスや看板などの落下物から防御する。ブロック塀や狭い道路などに注意しながら、空地や公園などに避難する。

○車を運転しているとき
ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落として（急ブレーキはしない）車を道路の左側に止め、エンジンを切る。冷静に周囲の状況を観察しながら、ラジオをつけ正確な情報を収集。車から離れたときは窓を閉め、キーを付けたままで、ドアロックもしない。車検証や貴重品は忘れずに持ち出す。

○電車やバスの中にいるとき
つり革や手すりにつかりつかまる。途中で止まっても、非常コックを開けて車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。あとは乗務員の指示に従って、落ち着いて行動する。

○デパートやスーパーにいるとき
カバンなどで頭を保護しながらショーウィンドーから離れ、柱や壁ぎわに身を寄せる。係員の誘導に従って冷静に行動する。



東海地震に備え 今、私たちにできること

今後30年間で87%の確率で起こるとされている東海地震。その「もしも」に備えるために、何を考え、どのように行動すればいいのか？ 今月号は前月号に引き続き、「今、私たちにできること」として、地震が起きたときの行動について紹介します。

写真：東北地方太平洋沖地震被害の様子（岩手県山田町）

東海地震に関連する情報

一般的に「地震予知は非常に困難」とされていますが、東海地震はマグニチュード8クラスの海溝型地震で濃密な予知連絡網が設置されており、直前予知が可能なが場合があると考えられています。その東海地震の予知に関する情報とは、発生の危険度に応じ、左記の3段階で発表されます。特に、東海地震の前兆現象の可能性が高まったことを示す「東海地震注意情報」は、防災対応を始める重要なタイミングです。

東海地震が予知されたとき、正確な情報を収集し、冷静に行動できるように心がけましょう（予知できずに突然、東海地震が発生する場合があります）。

東海地震に関する情報	
情報名	主な防災対策など
東海地震に関連する調査情報	・ 平常時の生活の継続 ・ ラジオ、テレビなどでの情報収集
東海地震注意情報	・ 防災準備行動開始 ・ 判定会開催 ・ 家庭でできる地震対策の実施（火の元確認、家具の転倒・落下防止など） ・ 危険区域からの避難行動 ・ 児童生徒の引き渡し など
東海地震予知情報	・ 「警戒宣言」に伴って発表 ・ 地震災害警戒本部の設置 ・ 交通規制の実施 ・ 百貨店等の営業中止 など

地震発生！ その時どうする？

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいものです。地震が起きて「あわてず、落ち着いて」行動するために次の行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生時の行動パターン

- 1～2分**
 - 落ち着いて、自分の身を守る
机の下などへもぐり、倒れてくる家具や落下物に注意を。
 - 火の始末はすばやく
コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める。揺れが激しいときは無理をせず、揺れがおさまってから火を消す。
 - ドアを開けて、逃げ道を確保
 - 火元を確認、出火していたら初期消火
 - 家族の安全を確認
 - 靴をはく
ガラスの破片などから足を守る。
 - 非常持出品を手近に用意する
 - 隣近所の安全を確認
特に一人暮らし高齢者など災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけ安全を確認する。
 - 火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。
 - 余震に注意
大きな地震の後には余震が発生する。
- 3分**
 - 津波、山・がけ崩れの危険が予想される地域は**すぐ避難**
- 5分**
 - ラジオなどで情報を確認
間違った情報に惑わされないように。
 - 電話はなるべく使わない
 - 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する
ブロック塀やガラスに注意。車は使用しないこと。
 - 子どもを迎えに
保育所や幼稚園・小中学校に子どもを迎えに行く。自宅を離れるときには、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。
 - さらに出火防止を
ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る。
 - 消火・救助活動
隣近所で協力して消火や救助を。あわせて消防署などへ通報する。
 - 簡単な手当は自分で行う
 - 生活必需品は備蓄でまかなう
災害発生から3日間は、外部からの応援は期待できない。
 - 災害情報、被害情報の収集
テレビ、ラジオ、同報無線など公的な情報を得よう努力する。
 - 壊れた家には入らない
 - 引き続き余震に警戒する
- 10分～数時間**
 - 自主防災組織を中心に行動する
 - 集団生活のルールを守る
 - 助け合いの心で
- 数時間～3日くらい**
 - 避難生活

東海地震について（気象庁HP）
http://www.seisvol.kishou.go.jp/ed/tokai/index.html
問合せ先
市民課防災係 ☎ 22215